

プロローグ

イントローニ刀流は実現する

3年前のお正月明けにメールで問い合わせがあり、とある地元の小学4年生（新5年生）と面談をさせていただきました。

I君は地元の小学校に通っており、3年生から中学受験の大手塾Sに通塾し中学受験を目指していました。他方で、大手の水泳クラブの選手コースに2年生から属しており、こちらのほうは本気でオリンピックを目指すべく、現在はジュニアオリンピックの候補を目指して日々練習に励んでいます。朝練はほぼ毎日、午後も週3日は水泳に通い、週末には大会に行くことも多いです。

大手塾Sも4年生のうちには基本的には週2日の通塾で4教科対応しており、水泳と合わせるとほぼ平日が埋まる形になりますが、なんとかこなしていけないことはない、という状況でした。組み分けも一番上のコースにはいけないけれど、その1歩2歩手前あたりで推移しており、決して低迷している、という様子でもありません。ちなみにご家庭の希望は、水泳はクラブでこのままがつつりやっっていくので、中高はできれば大学の、それもMARCH以上の付属に入りたい、ということでした。

ところが、12月の冬期講習前に大手塾Sの先生との面談にて、「このまま水泳と勉強を両方やっていたのは難しい。志望している学校を確実にするには、水泳の時間を減らすことが必要です」と言われたそうです。

そもそもの発端は、「水泳の曜日と塾の5年生の曜日がどうしても調整がつかない、なんとかならぬいか」というところからのようです。子ども本人は水泳と勉強では天秤にかけようもなく、「水泳をやめる、削るという選択肢はまったくない、だったら塾をやめる」の一択のようでしたが、親御さんはそこまでは割り切れないようでした。やっぱり中学受験の大手塾Sは現在は一強、と言っている存在です。周りの親御さんからも「S塾をやめて、その後うまくいった人はいない」みたいなことは結構ささやかれているようでした。

そこで、どうしたらよいか、と思案されていました。

水泳のコーチには、相談しても歯牙にもかけなくて、「今がとにかく大事なときなんですから、勉強なんて後にしてください」ぐらいの勢いということでした。

水泳をやめなければ、水泳でジュニアオリンピックを目指すことを諦めなければ、受験勉強はできないのか？ 他に選択肢はないのだろうか？

ということ、たまたま学校の知り合いが私たちのところに通っていたので、話を聞きに来た、というところでした。

大手の中学受験塾に行くと、その説明会ではいまだに「受験で成功したいならば、4年生（あるいはもっと前）から受験中心の体制にしないといけない」とか「習い事はせめて、週1日のものを1つまでにしてください。それも6年生になったらやめてください」とかいうレベルの話を、臆せず堂々と、さもそれが当然というように話をされているところが多いです。SだろがNだろがWだろがYだろが、地元の気鋭の塾だろが、おおむねその辺りは似たり寄ったりです。どこに行ってもそう話されると、親御さんとしては、「そういうものなのか」と思わざるを得ないでしょう。ある種の洗脳、と言ってもいいかもしれません。

しかし、本当にそうなのでしょうか？

本当に、4年生、場合によっては3年生から大手塾に通って、受験中心の生活をしないと、中学受験は成功しないのでしょうか？

そんなことは、断じてない、と思うのです。

それは、極論すれば、大手塾が儲かるための方便だと思っています。小学5年生に毎週テストを受けさせて偏差値を出して、順位を出して、週に3日、1日3コマぐらいの授業をして、宿題を1日2時間勉強しても終わらないぐらい出て、しかもやっていることは中学生が勉強する理科や社会よりも詳しいことをやっていたりして、そういう勉強をこなさきらないと、ついていかないと、受験には成功しない、というのは、大手塾さんの刷り込みです。極論すれば。

そもそもです。

高校受験をするのに、中学1年生のころから毎日受験中心の勉強、生活なんてやりきれぬのか？と言われれば、まあ、なかなかできないですよ。実際のところ私たちは中学生も高校生も見られるわけですが、そのようなストイックな取り組みができるのは、ごくごく一部のまれな人だけです。という

よりも、たとえ地域のTOP高校を目指すにしても、そこまでの取り組みは必要ありません。部活もすっかりやり、学校のイベントもすっかりやり、しかるべき時期がきたら受験勉強に移行する。その時期は人によって差はあるけれども、おおむね3年生になってからです。小学4年生から受験準備をするというのは、中学1年生から受験勉強をするということです。そういう、まれな人しかできないことを、小学4年生とか5年生に強いようとしているわけで、それは親御さんは大変なわけです。それを強いられている子どもたちは、本当に大変です。

小学生のうち、もともともとやっておいてほしいことがいっぱいあります。受験勉強なんかよりも。水泳の選手を目指すのも素晴らしいでしょう。野球に打ち込むのもいい。読書が大好きな子もいる。いろいろな習い事で可能性を探るのもいいでしょう。そもそも、たくさんたくさん友達と遊ぶべきだし、現代ならば、ゲームだって決してネガティブな要素だけではないでしょう。そこから得られる、人生の原体験というのは、実にたくさんあるはず。その原体験が、将来のひとりひとりの核心を築いていくと思います。その原体験が、受験勉強一色というのは、僕はやはり好ましくないと考えています。

だから中学受験の勉強は、今より圧倒的に短くすべきなのだと思います。これは、しなければならぬ、と思つています。ベターではなくて、マストということです。もし本当に、中学受験の勉強時間が半分でよくなれば、大手塾は半分吹っ飛びますが、これまで受験にチャレンジできなかった人たちもチャレンジできる可能性が生まれますし、金銭的な面でも、塾に対する費用を大きく下げることができれば、今まで受験しにくかった層も、私立の中学を視野に入れることができる人たちがいます。なぜならば、私立中学に入った後には、いろいろと補助が受けられる可能性があります。入るための塾代には公的な補助はありません。

お問い合わせをいただいた水泳少年の例でいえば、勉強と水泳、この2つの刀は両方持つべきです。野球界においては、大谷選手が投手と打者の二刀流でアメリカで旋風を巻き起こしましたが、この例は究極としても、二刀流は、「やると決めれば、必ずできる」ものです。ただかか受験勉強のために、持てる、研げる、もうひとつの刀を捨てるのは、なんといつてももったいない。もつといえば、受験勉強も、習い事も、スポーツも、遊びも、みんなみんなやれるだけ、めいっばいやってほしいわけです。小学生のうちには、そうしながら、受験準備をするというのは、「必ずできる」選択肢です。

二刀流は目指すべきです。勉強と〇〇の。それがこれからの中学受験のスタンダードになるべきです。そうなるために、中学受験の勉強時間は、今の大手さんの提示するものの半分以下にしていく、その方策を探っていきたいと思います。